



秋田県立能代支援学校教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

【現状と課題】

- 1 児童生徒数は、近年は80～90人台で推移している。発達障害（30%）や肢体不自由（10%）のある児童生徒もおり、多様な実態に応じた指導の充実が必要である。そのため、自立活動の視点を踏まえた学習計画の立案とねらいを明確にした学習指導を充実させる必要がある。重度重複の児童生徒の意思の表出については、ICT機器を使った指導を充実させるとともに、意思を汲み取る教師の力量、専門性を高める必要がある。
- 2 自立と社会参加に向けた開かれた教育課程として、直接的・間接的に地域に貢献する活動や地域を活用した学習活動を継続実施し、積極的に情報発信することで共生社会の実現のために地域の理解を一層広げる必要がある。
- 3 高等部における職業教育の充実を目指してきたが、高等部入学後の三年間に中学部（中学校）段階を加え、職業教育を一層充実させる必要がある。そのため、作業学習について、中学部・高等部の連続した一貫性のある指導内容となるよう見直しを図る必要がある。また、地域と連携し、地域に貢献できる作業学習製品の開発も充実させたい。さらに、地域の小・中学校に情報提供を行い、共に高め合うことで、就職希望者を増やし、地域を支える人材育成に努め、就職することを目的とした職業教育ではなく、働き続ける力を培うためのものとして改善し、充実させる必要がある。
- 4 介護職員初任者研修について、小学部段階から目指す職業の一つと考えることができるように、児童生徒や保護者への周知に努める必要がある。
- 5 小・中学校との交流及び共同学習については、「交流及び共同学習ガイドブック」を基に情報共有し、連携して学校間交流、居住地校交流を実施している。コロナ禍においても交流及び共同学習が充実するように、直接的だけでなく、間接的な交流学习など、内容や方法を工夫しながら進めていく必要がある。

2 将来の状況の予測等

- 自立と社会参加に向け、社会に開かれた教育課程がより必要となるであろう。「職場定着対策会議」等を引き続き開催し、事業所や法人、行政から情報や助言を受け、新しい職域を開拓しながら地域産業に従事する人材を育成していきたい。
- 共生社会の形成についての理解促進のため、地域との連携がより重要となるであろう。地域の目標（ニーズ）と学校の教育活動の目標を両者で共有し、本校児童生徒が地域に貢献する活動を積極的に展開していきたい。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

- 自分の考えをもち、胸を張って主体的に社会参加する児童生徒の育成のため、地域の人やもの、場所を活用した教育活動を展開していく。

【目指す児童生徒像】

- 明るく元気な子 ー 心と体を鍛え、笑顔で生活する児童生徒
- 仲良く助け合う子 ー 思いやりの心を持ち、共に遊び学ぶ児童生徒
- 喜んで働く子 ー 挑戦する気持ちを持ち、自ら考え、進んで行動する児童生徒

Ⅲ 具体的な目標 ・ 取組 ・ 推進指標（令和3～4年度）

- (1) 明確な根拠に基づき、主体的に学ぶ力を育てる学習指導の充実と専門性の向上
- ・ 自立活動の視点による的確な実態の把握と課題の設定及び系統性のある指導計画の立案 【個別の指導計画の確認・見直し 月1回】
 - ・ 明確なねらいのある授業づくり
 - 【授業研究会 各学部1回（年3回）うち1回 公開授業研究会 参加数30人】
 - ・ 児童生徒が見通しをもって学び、自分の成長や進歩が分かる学習評価を工夫
 - ・ キャリア教育の視点で系統性のある教育課程の編成
 - ・ 小学部からの進路指導と中学部からの職業教育の充実
 - 【学年進行による進路学習指導内容表の作成と改善】
 - 【職場定着対策会議（校内） 年2回】
 - 【能代・山本地区全小・中学校への中学部資料配付 27校】
 - 【中学部・高等部作業学習公開（交流を含む） 年2～3回】
 - 【一般就労を希望する生徒の割合 46%→ R4 50%】
 - 【一般就労を希望する生徒の就職率 R4 100%】
 - ・ ICT 機器の活用を含め、児童生徒が何を身に付けるのかを明確にした授業実践による、教師の専門性の向上
 - 【ICT機器活用に関する研修会 年3～5回】
 - 【教育専門監等の授業改善（計画～評価）への活用 随時】
- (2) 学級経営を基盤とした道徳教育の推進と生徒指導の充実
- ・ 人間関係を築く力を育み、一人一人の心の居場所となる学級の経営
 - ・ 礼儀と思いやり、規範意識、自己指導能力の育成を目指した指導
 - 【道徳目標 各学部 月ごと】
 - ・ 保護者と連携し、心身の健康の維持と規則正しい生活習慣の確立と指導の充実
 - ・ 全ての児童生徒が安全で安心して生活できる環境の整備
 - 【全校清掃日の設定 月1回】
 - 【避難訓練 年3回】
 - 【危機管理意識の醸成 地震シミュレーション体験等の実施 2年に1度】
- (3) 地域と関わり、地域に貢献する教育活動の充実
- ・ 直接的・間接的に地域と関わり、地域に学び、地域に貢献する学習活動の推進
 - 【居住地校交流の実施率 ～R4 小学部 50%台、中学部 30%台の維持】
 - ・ 交流及び共同学習の計画的な実施と障害理解授業の推進
 - 【能代・山本地区小・中学校、高等学校における障害理解授業実施率
～R4 小・中学校 50% 高等学校 15%】
 - ・ 学校からの機を逃さない積極的な情報発信
 - 【ホームページの更新 月1回以上（学校行事・学習活動終了後2週間以内）】